

公立大学法人公立諏訪東京理科大学中期目標（案）に対する意見要旨

【第1回諏訪広域公立大学事務組合公立大学法人評価委員会（9月7日開催）での意見】

- ・全体的に良いものになっていると思うが、今の大学運営とあまり異なるところが出てくると色々な問題が出てくると思うので、現在と照らし合わせながら作成していければよいと思う。
- ・助教の任期制やテニユアトラック制について記載があるが、もし、こういった制度にこれから取り組むということになるととても大変だと思う。また、助教は任期制やテニユアトラック制度を行うが、なぜ教授や准教授は行わないのかといった問題も出てくると思う。この辺りは、勤めている方にとってはシビアな問題になってくると思う。
- ・「工学系統の新たな分野への展開」とあるので、もし伸びる方向があるならば是非とも取り組んで行ってほしいと思う。
- ・「シーズ発掘を目指すイノベーション型研究と、地元企業のニーズに応える実用化研究をバランス良く実施する。」とあるが、工学部というからには順番が逆ではないかと思う。工学部ということ重視すると、「企業のニーズに応える実用化研究とシーズ発掘を目指すイノベーション型研究をバランスよく実施する。」となると思う。かつて、「産業は学問のニーズである。」といった方がいたが、とても工学部的な考え方であると思う。工学部という感じを出すのであれば、ここは順番を入れ替えた方がいいかもしれないと思う。
- ・競争的資金について、外から資金を取ってきたときに、これをどのように配分するかしっかり考えてほしいと思う。例えば、科学研究費を獲得すると3割ぐらい間接経費がくるが、それをどのようにしていくかを明確にするとよいと思う。そういった経費については、是非、大学へ戻したり、研究者にも若干戻したりしてもらい、やりがいのある研究環境を構築しておいてほしいと思う。
- ・「常に大学の変革を意識した運営を行う」とあるが、日本人は現状優先になりがちだが、精神として、こういう意識が大切であると思う。
- ・人事評価について、「公平公正な人事評価を実施して、人材の処遇・配置に繋げる」ということは、非常に重要であると思う。
- ・中期目標については良くできていて、このことがうまくできれば大変良い学校になると思う。一番重要である、教育をどうしていくかということが明確になっていることと、研究や地域貢献ということがしっかり謳われているのでとても良いと思う。

- ・中期目標を達成するための具体的なことについては、これから中期計画が作られ、それには数値目標や達成すべき目標が出てくると思うが、そういった事に対して、我々がまた評価していくのだろうと思う。肝心なことはこの目標を受けて、中期計画をどのように具体的に作成していくかということで決まってくると思う。
- ・グローバル化が進む中で、グローバル人材の育成ということをしかりと謳ってあり、この学校で出来ること、それから海外へ行くことなど、色々な取組をしていくということが記載されているので、大変良いと思う。
- ・具体的な数値が出てこないとなかなか評価するのは難しいが、中期計画もこれからできてきて、それに対してもこれから意見を言う機会があると思うので、この中期目標を達成していくために中期計画をしかり作っていただきたいと思う。
- ・公立大学を作ることが目的ではないので、この公立諏訪東京理科大学で教育を受けた人材が地域に根差した人材になるように、しかりと考えていただければ良いと思う。
- ・「働きやすい環境を整備する」とあり、こういった部分は最近の情勢を捉えて記載してあり大変良いと思う。それから「男女共同参画」について、中期目標の前半で積極的な女子学生の入学促進ということが記載されていて、学生だけでなく女性教員に関することや、子育てに関する事などがあると思うので、このあたりも計画の中で具体的に書き込んでいただければと思う。
- ・目次の表現を統一した方が良い。（「～の目標」という表現があったり、「～の改善」という表現が混在している。）